

2026 年度 (令和8年度) 学校評価自己評価表

神辺東中学校区	校番 75	福山市立竹尋小学校
最終更新日		2026 年 (令和 8 年) 9 月 29 日

I 福山市

めざす姿	すべてのこどもたちが、自分自身の成長を実感できる学校教育の実現
------	---------------------------------

II 中学校区

前年度学校運営協議会 (学校関係者評価)の主な内容	児童生徒の現状	育成する 資質・能力	課題解決力 (思考力・判断力・表現力) 主体性・協働性
・各校とも工夫した取組がなされている。児童生徒の学力向上への取組やよりよい生活習慣づくりへのアプローチについては、今度とも進めてほしい。 ・教職員・保護者・地域が協働して児童生徒の育成に取り組んでいきたい。	・学習に向かう意欲や、努力する態度が育ち、学力は向上してきている。更に言語活動を充実させ、表現力を育成する必要がある。 ・決まった活動は素直に取り組むことができる。しかし、自ら挑戦したり、人とかかわりながらやり遂げたりすることには、やや課題がある。	めざすこども像 (義務教育修了時の姿)	「なりたい自分」を目指し、自立・協働し、社会貢献への意欲をもつ。 【学力向上部】探究型の学びづくりとその他の学力向上に向けての取組の交流を行う。 【生徒指導部】小中及び小小連携・交流活動の実施、生徒指導規程の見直しを行う。児童生徒の実態交流及び連携を行い、進路指導について研修する。 【健康・体力推進部】児童生徒が自らよりよい生活習慣づくりをするための取組を行う。
		中学校区として 統一した取組等	

III 自 校

学校教育目標	育成する 資質・能力	課題解決力 (思考力・判断力・表現力)	主・協 主体性・協働性
自ら気づき、考え、行動する子どもの育成	低	問いを自分事として粘り強く考えことができる。	・学び合う場で、自分の考えをもち相手に伝えることができる。 ・相手の思いや考えを受け止めることができる。
現 状	めざす こども像	中	自分の考えをもち、相手に伝わるように表現したり、相手の意見を受け入れたりしながら、友達と協働することができる。
＜児童生徒＞ ○基本的な学びに向かう姿勢や学習習慣は少しずつ定着してきており、基礎学力も徐々に定着しつつある。(単元テスト 70%未満児童 国語 8.5%, 算数 15.9%) ○総合的な学習の時間や生活科で地域のよさに触れ、故郷への愛着を高めつつある。(「地域の良さや課題に気付き、解決しようとした」88.1%) ●学年単学級で固定化された学級集団で生活しているため、自分の良さを発揮する機会が限られ、自分の思いや考えを豊かに表現する力が弱い。 ＜授業＞ ○「問い」と「言語活動」を中心に子どもが主体的に学べる授業づくりを行っている。 ○個別最適な学びに取り組み、児童が学びを選択したり、学び方を振り返ったりすることで、主体的な学習者を育てる。 ●「課題発見・解決学習」の過程の中に、対話が位置づいた授業展開に必要がある。	高	「なりたい自分」を見つけ、自ら課題を見出し、よりよい解決方法を考えて実行し、次の学習につなげることができる。	「なりたい自分」を目指す中で、自ら自他のよさや可能性を尊重し合おうとしている。
		テーマ	「自分の思いや考えをもち、伝え合う子どもの育成」～問いを生かした授業づくり～
		研究 内容等	・単元を通して学び続ける問いの工夫や単元構想 ・児童自ら課題を発見、解決方法を共有し、協働的、対話的に学びが進む授業づくり
		めざす授業の姿	・児童一人一人が明確なねらいをもち、自己の学びに関連付けて振り返る授業 ・「課題発見・解決学習」の過程の中に、対話が位置づいた授業 ・問いを追究し、児童が主体的に学び、表現する授業

Ⅳ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立竹尋小学校

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)				
							□指標に係る 取組状況	プロセス 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	プロセス 評価	達成 評価	総合 評価	改善方策
3	自分の思いや 考えをもち、 伝え合おうと する意欲を育 み、力を付け る。	★	継 続	・自分の学びの選 択や見直しを行 い、学び続ける 学習者を育成す る。 ・自分の思いや考 えを相手意識・ 目的意識をもっ て表現する力と 基礎学力の定着 を図る。	○課題を選択で きるようにし、 個に応じた指 導を行う。その ために、児童の 理解度の実態 を把握する。 ○自分の考えを まとめる時間 を設け、教科の 用語を使うな ど、より詳しく 表現できるよ うにする。 ○「問い」の設定 を行い、学ぶ目 的を意識づけ、 活用させなが ら基礎学力の 定着を図る。	○ポートフォリ オ質問項目Ⅰ 「自分にあっ た教え方、教 材、学習時間」 肯定的評価 90%以上、国語 16算数15「自 分の考えとそ の理由を明ら かにして、相手 に分かりやす く伝えるよう に発表を工夫」 の肯定的評価 75%以上 (全学年で実施) ○国語科・算数科の 単元テストにお いて、70%未満 の児童が15%未 満	□ポートフォリ オ質問項目Ⅰ の肯定的評価 93% 国語 16 算数 15 の肯定的 評価 65% □国語科・算数 科の単元テス トにおいて、 70%未満の 児童 〈国語〉 知技：10% 思判表：6% 〈算数〉 知技：4% 思判表：18%	3	3	○根拠を明確にし て説明したり、算 数用語や国語の 学習用語を用い て自分の考えを 表現したりする 活動を継続的に 取り入れる。 ○算数科において、 日々の授業の中 でも、図を使って 問題場면을把握 するようにする。					
1	自他を認め、 相手を思いや る心を育む。		新 規	・自他のよさを認め 合い、互いを尊 重した円滑なコ ミュニケーション ができる集団づ くりを推進する。	○児童が互いに 自分たちのあい さつを振り 返る場を設け る。 ○児童会活動や 学級活動を通 して、あいさつ 向上について 考える機会を 設ける。	○あいさつカード のレベル3到達 児童を30人以 上にする。	□あいさつカー ドレベルⅠの 児童38人 レベル3達成 4人	3	2	○9月と11月に あいさつ強化月 間を設け、児童が 意識してあいさ つに取り組む場 を設ける。 ○児童会や高学年 を中心としたあい さつ向上に関 わる取組を行う。					
6	自らの目標に 向かってより よく生きる力 を向上させ る。		継 続	・健康的な生活習 慣と主体的な体 力づくりにより 体力向上を目指 す。	○児童発信で全 校遊びを月1 回行い、体育の 時間以外で運 動機会を増や す。	○新体力テストの 96項目のうち 全国平均以上の 項目が50%以 上	□新体力テストの 96項目のうち 全国平均以上の 項目が36%で あった。	2	2	○握力グリップな どを使い、日常 的に握力を鍛え られる環境をつ くる。また、各 学年測定を行 い、伸び率を掲 示し意欲を高め					

				○児童会や委員会でメディアに関わるルール決めや啓発活動を行う。 ○特別活動で家庭でのメディア外の過ごし方について考えさせる。	○メディア使用時間の自己目標を達成した児童の割合を70%以上	□メディア使用時間の自己目標を達成した児童の割合が71.2%であった。	4	3	る。家庭での柔軟体操の取り組みを周知する。 ○メディアに関わるミニ保健や、児童会からメディア以外の過ごし方の啓発を行い、取組の具体を通信や掲示物で発信する。										
4	教職員の働きがいと力量向上を図るとともに、保護者・地域と協働して教育活動を推進する活力ある学校風土を醸成する。		見直し	・教職員の働きがいを高めるとともに業務改善を推進し、保護者・地域と協働した教育活動の充実と時間外在校時間の縮減を図る。	○還元研修・ミニ研修（任意）等教職員の関心や強みを生かした研修を行う。 ○各部において行事や活動の目的を再考して精選する。 ○保護者・地域と連携した教育活動（ボランティア活用・行事等）を実施する。	○「仕事に意義ややりがいを感じている」100% ○時間外在校時間月45時間以内、年360時間以内の職員85%以内 ○「保護者・地域の協力により教育活動が充実している」肯定的回答90%以上	4	4	□「仕事に意義ややりがい」92.3% (授業を行う教員75%) 還元研修等を実施し、学び合いの機会を充実させた。一方で、授業準備や教材研究の時間が十分に確保できなかった。 □時間外在校時間月45時間以内100%、月平均30時間以内85%。業務の精選を進めたが、持ち帰り業務や校務分掌の負担の課題が残る。 □保護者・地域の協力による教育活動の充実 教職員100%、保護者100%、地域92.3%が肯定的に回答した。保護者・地域は協力的で、ボランティア拡充への期待がある。	○低中高部会等の時間を活用し、授業準備や教材研究、実践の共有を行うことで、教職員の学び合いを充実させるとともに、研修等の効率化を図る。 ○校務分掌や業務分担、行事等の実施方法を見直し、業務の精選・効率化と協力体制の強化を進める。 ○保護者・地域ボランティアの募集・活用を進め、地域の教育力を生かした教育活動の充実と教職員の負担軽減を図る。									

[プロセス評価の評価基準]

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

[達成評価の評価基準]

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

[総合評価の評価基準]

評点	評価基準	
5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。